

Title	福澤先生と巴里(二)
Sub Title	
Author	松本, 信廣(Matsumoto, Nobuhiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1934
Jtitle	史学 Vol.13, No.3 (1934. 11) ,p.118(464)- 118(464)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白録
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19341100-0118">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19341100-0118</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 福澤先生と巴里 (二)

なほ先生が前回パリ滞在中見物された禽獸草木園は今日 Muséum d'histoire naturelle と改められたるものと Jardin botanique, ménagerie, Galerie de Zoologie, Galerie de géologie et de minéralogie, Galerie de botanique, Galeries d'anatomie, de paléontologie et d'anthropologie 等から成つてをる。此諸ギャラリーの中興味あるのは人類學のギャラリーであつて、此處に諸人種の頭骨あり、日本人の頭骨も二百有餘點並べてある。自分は滯巴中度々此處に杖を曳いたが、此のギャラリーの片隅に、文久二年の日本使節一行の一人一人の全身寫眞が陳列してあるのを發見した。調べてみると竹内下野守や松平石見守の寫眞と共に下位の士官の一人として福澤先生らしき寫眞がある。その名は Sakuma としてあるが、當時の一行中に同名のものはない。Sの花文字はFのそれと間違ひやすく、之は恐らく福澤先生の肖像ではないかと思はれる。福澤先生の在歐中の寫眞の中露都に於けるものは花房公使に依り携へ歸られ、武田勝藏氏が之を「史學」第三卷第三號に紹介され、オランダ撮影のものは幸田博士が之を三田評諭昭和四年六月號に紹介された。何れも福澤諭吉傳一に蒐録されてをる。然しパリーのものは今迄知られてゐなかつたのである。此寫眞をオランダやロシアのものとは比べると少し顔立ちが異なる様な氣がするが、富田氏などの鑑定では恐らく福澤先生に間違ひはあるまいといふことである。當時の三使がパリで寫眞屋にゆかれた事は尾蠅歐行漫錄三月廿四日の條に見ゆるが、日本人の寫眞が珍重され、接伴者などと交換してゐる狀が同漫錄四九四頁に見ゆる。日本人もまた寫眞が珍らしく度々寫眞屋を訪れてをるが、歐人はその寫眞を複製して日本人の人類學的研究に資したらしい。巴里に於て人類學のギャラリーに之を掲げてあるのは全くその爲で一行が當時今日エチオピアあたりの日本遣使と同程度にフランスで考へられてゐたことがわかる。前述の福澤先生らしき肖像は人類學者デニカ



1 Deniker 氏の Les Races et les peuples de la Terre, Paris, 1900, 2e éd., 1926, p. 90 に半身だけ轉載し officier japonais

(ancien régime), né à Tokyo. Exemple de face allongée. (photo Muséum Hist. Nat., Paris) (舊制度治下の) 日本士官、東京生れ、顔長き型の一例、巴里博物學陳列館寫眞)と記してをる。デニカ氏はマルツの觀察に依り日本人を優秀型と下司型とに分ち、福澤先生らしき寫眞を前者、主として支配階級の間に見られる背高く頭比較的長く、顔立ち細長く、眼が水平で鼻の眞直ぐな型の標本として挙げたのである。デニカ氏は理學博士で、此の陳列館の圖書館員を務めてゐた。その書は世界中の人種のことを判り易く一冊に纏めあげたものとして今に名聲が高い。然し本書に依り福澤先生の肖像が日本人の標本として全世界に流布したかと思ふと、ただ感慨無量なるものがある。(松本信廣)